

# 大東市歴史の散策道

## ～ 堂山古墳群と龍の里コース（健脚向き）～

野崎駅⇄龍間バス停（所要時間2～3時間）

野崎駅から堂山古墳群史跡広場を経て山間部の龍間に至るコースです。野崎駅から龍間までは道が険しいので健脚向きです。見どころは、5世紀前半の百舌鳥・古市古墳群と同時代に造られた1号墳をはじめ6世紀から7世紀に造られた多彩な石室を持つ2～7号墳から成る堂山古墳群（史跡広場）と墳丘からの眺望です。また、龍間地区には大阪と奈良を結ぶ立地から古い道標や石仏が残っており、山間部には都会の喧騒を忘れさせてくれる静かなスポットが残されています。

龍間から北へ尾根伝いに20分ほど進むと、飯盛城址へ向かう「城址探訪コース」に合流できます。より健脚に自信のある方は挑戦してみてください。

(始)野崎駅 ⇒ 堂山古墳群 ⇒ 延徳銘地藏 ⇒ 一石十三仏板碑 ⇒ 龍間寺観音堂  
⇒ 一石二段六地藏板碑 ⇒ 龍間神社 ⇒ (終)龍間バス停 → 城址探訪コース

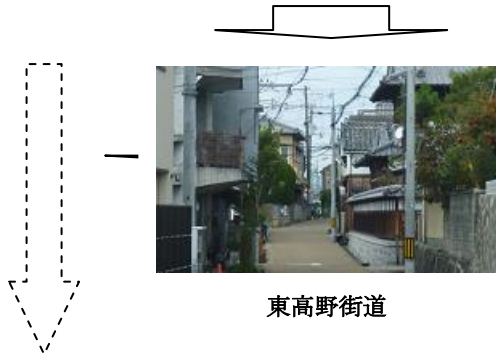


### 野崎駅



歴史とスポーツふれあいセンター  
(愛称：来ぶらり四条)

旧四条小学校の跡地を活用して設置された生涯学習の複合施設で、歴史民俗資料館のほか、図書館や体育施設を併設しています。歴史民俗資料館では、大東市の歴史を常設展示し、文化財や歴史を含めたいろいろな情報を提供しています。



東高野街道



堂山古墳群(市指定文化財)

堂山古墳群は、大東市を代表する古墳群で、7基の古墳からなります。中でも1号墳は5世紀前半に築かれ、甲冑や土器、勾玉など多数の副葬品が出土しました。ここに眠る被葬者は、当時の政権に深い関わりをもった人物であると考えられています。

この場所は史跡広場として整備され、石室と見ることもできます。



野崎龍間線



専応寺



野崎龍間線



野崎龍間線



宝塔神社



とめやん碑



龍光寺入口



龍光寺跡

堂山古墳群から山道を辿り、廃寺となった龍光寺で見つけることができるのが、大東市で一番古いとされる延徳銘地蔵(石造地蔵菩薩立像)です。舟型光背を背にして、右手に錫杖、左手に宝珠を持つ姿が半肉彫で表わされています。「延徳二庚戌三月」(1490)の銘が見られ、当時の民間信仰を知る上で貴重な石仏です。



延徳銘地蔵(市指定文化財)



称迎寺



一石十三仏板碑(市指定文化財)

延徳銘地藏を離れ、称迎寺に向かうと、一石十三仏板碑があります。ここには初七日から三十三回忌までの供養を司る13の仏が半肉彫されています。本来、死後に行うこれらの供養・仏事<sup>ぎやくしゆ</sup>を生前に行うことを「逆修」といい、14世紀頃から17世紀までに「逆修」を目的とした碑が多く建てられ、これもその1つです。

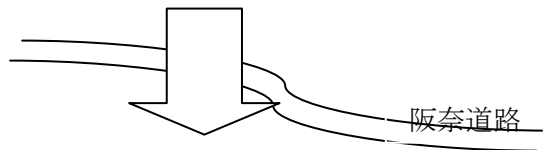


龍間寺観音堂

同じ称迎寺の境内にある龍間寺観音堂には、十一面観音像が安置されています。江戸時代には、『河内鑑名所記』や『河内名所図会』にも記され、「河内西国三十三所」の霊場として人々の信仰をあつめていましたが、龍間寺が戦後廃寺となり、平成になってからこの地に移されました。



十一面観音像(龍間寺)



阪奈道路



一石二段六地藏板碑(市指定文化財)

称迎寺から阪奈道を越えて行くと、道ばたに一石二段六地藏板碑を見つけることができます。永禄10年(1567)に六斎念佛講の構員55人が建てたと銘文に刻まれています。

月のうちの8、14、15、23、29、30日を六斎日といい、当日は念佛を唱え精進しました。六地藏の前の道が古堤街道(龍間越え)の道です。



龍間神社

六地藏からさらに先へ進むと、龍間神社の鳥居が見えてきます。

石段を上がっていくと正面に見える本殿は、春日造アミノオン ホ ミノミコトで、天忍穂耳命を祀ります。境内には昭和5年に建てられた天然氷の製造記念灯籠があります。この地では大正末頃まで池に水を張り氷作りが行われていました。またおかげ参り(伊勢神宮への集団参拝)の灯籠も残されています。



天然氷記念灯籠

